

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
I. 理念に基づく運営						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<理念>共に生きる―「人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供に努める」―を実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を書いたものを額に入れ、リビングルームと職員の休憩室に掲示し、問題が起きる度に理念に立ち返り、解決を導き出している。		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	町内の会合に出席し、折に触れて話している。又、ホームのリビングに掲示し、面会時見てもらえる様にしている。契約書に表示している。		
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に加入し、代表が会合に出席したり、年2回のあすなろまつりには町内会等に回覧を廻し、近隣に立看板を立てて訪問を促している。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、行事に参加している。近所の保育園の運動会に参加させていただいている。		
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まだ話し合い、取り組みとも行っていない。	○	社内ミーティングの話題にしなが、何が出来るか考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	業務連絡、社内研修ノートへの読後サインの徹底を行っている。室内環境の改善に取り組んだ。	○	折にふれて外部評価の内容を職員全員で勉強していきたい。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ開催が1回のみで、意見がいただけていない。	○	今後2回、3回と回を重ねていくことで、意見が出されると思うので業務に生かしていきたいと思う。
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症介護研修、「認知症ケアを考える会」。市のケアマネ連絡会、グループホーム連絡会等に参加している。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるよう支援している	必要に応じ資料を取り寄せたり、関係機関に質問したりして、支援出来るようにしている。	○	これからも講習などあれば勉強しておき、また、その都度資料、関係機関との連絡を通じて適切な支援が出来るよう取り組んでいきたい。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止研修専門課程受講済。社内研修、日常業務を通じて、職員にも周知徹底している。		
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度行っている。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に意見をうかがっており、その都度改善に役立っている。	○	意見をきく日を週1回位設けて生きたいと思う。
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会によく来られる家族には面会時、ほとんど来られない家族には利用料の請求時、様子を伝えている。	○	広報紙の発行を考えている。
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価をはじめとして家族会等へ意見を言っていたくよう、折に触れて伝えている。	○	これからも意見をいただける様、広報を行っていきま
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務提案ノートを設け、自由に書いてもらっている。又、社内研修時、意見を聞いて検討している。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めてい	シフトに組んだスタッフの他に、管理者がフリーで対応している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	交代は1名づつとし、利用者との接触の少ないポジションから入り、徐々に慣れてもらうよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修にはよく参加してくれるが、外の研修は声をかけても希望する人がほとんどいない。	○	職員を採用したら、その人の経歴を考慮して、育成計画を立て、実行していきたい。
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のケアマネジャー連絡会、グループホーム連絡会、認知症ケアを考える会に参加、学習している。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は毎日出勤し、職員の様子を観察してストレスが何から起きているか把握し、聞けることは聞いて解消できるように努めている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月1回のミーティングでも雑談の時にストレスが解消できるように努めている。その都度言葉で褒めている。又、昇給に反映している。	○	出来たら賞与でも認めてあげたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人と面接、ホームのパンフレット・写真等をお見せして説明し、本人の訴えもよく聞いている。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームを見学してもらいながら話を聞き、自宅へ伺って本人と面接しながら家族の話を聞いている。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく伺って何のサービスが必要か検討している。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフが自宅を訪問し、パンフレット・写真などを見せながら、コミュニケーションをはかり、安心してサービス利用できるようにしている。	○	今後、更によりよい方法を検討する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族または友人のような関係を会話の中に取り入れ、または先輩としていろいろと教えてもらう様な会話を多くしている。	○	より一層、実践の場において、色々なことを一緒にやって行けるよう取り組みたい。
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一緒に掃除をしたり、洗濯干し、洗濯物たたみをしたり、他利用者への伝達を一緒にしたり、外出をして外食するなど、共に行い、楽しむよう取り組んでいる。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会は自由に、入室でしていただいたり、スタッフも交えて会話したり、臨機応変に行っている。また、自宅へ帰れない理由を家族と統一している。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	医療機関への受信は、家族で行ってもらう。年2回のあすなろまつり、年2回の家族会に参加してもらうよう働きかけを行っている。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ゲームや外出などを通じて、お互いが助け合い、かかわり合える様支援している。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた利用者の墓参りをしたり、家族を訪問又は電話にて話をするなどしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在、3団体方式でアセスメントを行っているが、センター方式を学んでいる。	○	今後アセスメントをセンター方式に切り替えていきたい。
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族又はケアマネさんより情報の把握をしている。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプラン作成は入居後1週間から10日程様子を見てからスタッフの意見を聞いて作るようにしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一同に集まることは、なかなか出来ないため、各々の意見を聞いて介護計画に役立てている。	○	今後は出来ればスタッフ数名、家族、本人も会って話し合いが持てれば、と思っている。
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	行っているが、変化が生じた時すぐに対応するのが難しい。	○	今後は変化が生じた時、早く計画の変更が出来るよう努力していきたい。
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者毎に毎日介護記録を記し、情報を共有、計画の見直しにも活かしている。	○	今後、介護記録の書き方を学んで、よりよい介護記録を書けるよう努力していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今のところグループホームのみのサービスとなっている為、他のサービスは他機関への紹介となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今のところ民生委員さんの訪問、イベント時のボランティアさんの協力を得ている。又、防災訓練時と救急時、消防の協力を得ている。	○	今後は警察、文化教育機関等も協力を依頼していきたい。
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行っている。	○	今後も連携を密に本当にその人に合ったサービスを目指していきたい。
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ協働した例はない。	○	今後必要性が出現した時は行っていきたい。
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、当方提携医以外の医療機関へかかっている方も、その医療機関と連携を取って、利用者の健康状態の把握に努めている。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の専門医への受信は支援しているが、職員については、今のところ管理者のみとなっている。	○	専門医との交流会などがあつたら参加したいと思う。
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護職であるが、問題ある時は地域の看護職の方等に相談している。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は必ず医療機関へ付き添い最近の様子、飲んでいる薬などを報告している。又、時間の許す範囲で3~4日に1回見舞っている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	行っている。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	行っている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1)一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけは、慎重丁寧に行っている。記録への個人情報情報は一部不備な点もある為、改善していきたい。	○	今後も注意・改善していきたい。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行っている。		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望におおむね沿っていると思うが、食事、おやつ時間は、ほぼ一定で一堂に集まって摂っている。用事や体調等で集まらない時はその方に合わせて提供している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	努めている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その時々利用者の状況を見ながら、行っている。衛生面、理解力面からむずかしいこともある。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは遠慮願っているが、その他は支援している。(お酒、ココア、まんじゅう、甘酒その他)		
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	支援している(食事の前など声かけてトイレへ行ってもらっている)	○	更に本人の排泄パターンを観察し、オムツの使用を減らすように努力していく。
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入っていない人から声かけているが、本人の希望がある場合は希望に合わせている。		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	鍵をかけて眠る方、電気をつけたまま眠る方、入り口の戸を細くあけておく方、それぞれに支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日散歩を日課としている人、お祭り好きな人には時々ビデオをかける。洗濯のため、調理好き、床拭きなど、それぞれに支援を行っている。	○	今後更にその方に会った楽しみごとを探して支援していきたい。
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症のごく軽い方には支援しているが、自分で支払ったのを忘れて盗られたと怒る方にはお金の所持をやめてもらった。	○	出来るだけ、お金の支払いに参加してもらうよう努めていきたい。
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日以外は毎日散歩を行い、参加して頂くよう声かけしている。又、若い方で安定している方には障害者の作業所へ週2回通所の介助をしている。お祭りなどへも希望者を連れていっている。		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣、花見(桜、チューリップ、あやめ、あじさい)、ぶどう狩り、紅葉狩り、外食、お祭り見学など月1回位のペースで行っている。		
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用、取次ぎ、手紙の投函など支援している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お客様にはお茶を出し、時間によってはお茶菓子、食事なども一緒に摂ってもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何回も繰り返し、例を示して話しており、職員も理解し、身体拘束は行っていない。		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない様、繰り返し話し、鍵をかけないで外に出たら付き添う介護をしている。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	朝夕の食事、10時3時のおやつ他に、夜間の巡回も含めて8回、各室巡回を行っており、その他に用事がある時訪室しているため、1日15、16回の訪室をしている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとり個人差がある為、火の始末は出来なくてもハサミ、鋏などはほとんど危険がないため持っていたいでいる方もいる。	○	引き続き一人ひとりに合わせた支援をしていく。
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	身体拘束、リスクマネジメント等の研修を受け、事故が起こる原因を把握し、職員に周知することで、事故防止に取り組んでいる。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	まだ、すべての職員に定期的に行っていない。	○	近くで開かれる講習会等に職員を参加させて、知識と技術を習得させたい。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会に顔を出したり、イベントを開いて近隣の方々をお誘いしたりして交流を図っているが、避難についての協力依頼はまだ来ていない。	○	協力を得られるよう努力していく。

項目番号	項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目		
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時、言葉により説明し、同意を得ている。	○ 今後、文章化する必要があるか検討していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週1回の血圧測定、月1回の体重測定を定期的に行い、変化があれば体温脈拍もその都度測定し、申し送っている。	
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に薬の説明書を綴りこんでいつでも見られる様にしている。	
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取、野菜たっぷりの食事と歩行(散歩)などの運動を介助している。	
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ではないが、夜、就寝前毎日歯磨き、入れ歯処理、うがいを支援している。	○ 朝夕で行える様支援していく。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嫌いな食品は代替のものを提供する。菌のない方には刻むなどの支援をしている。	
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	咳が出る時はマスクを厚くする。拭き掃除は薄めたハイター液で行っている。	○ 更に疥癬対策を検討していきたい。
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日行っている片づけの他に冷蔵庫内調味料、食材置場、調理器具置場等を曜日毎にすこしづつ清掃・消毒を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関へのアプローチに鉢植えの花を飾っている。	
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や人形、カレンダー、絵、日頃撮った写真等を飾っている。又、照明は一部を除いて電球色を使用している。	
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りきりにはなれないが気の合った同士、思い思いに過ごせる場所としてリビングを利用している。独りになりたい時は、事務室のソファを利用している。	
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでもらっている。	
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日何度でも訪室し、職員全員で気をつけている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、室内への手すりの取り付けを行っている。	
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各室への表札の取り付け、トイレ、浴室の表示、たんす等への中身の表示を行っている。	
87		建物の外周や空間の活用	建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダへのテーブルとイスの設置、庭へ花と野菜を作ったり、摘んだり収穫したりしている。	

(様式1)

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
V. サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が行きたいところへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない